

「間葉系幹細胞とボクシングと私」

奥野 真起子

昨年4月から、東京医科歯科大学運動器外科学の宗田大教授、軟骨再生学の関矢一郎教授の下で研究させてもらっています。研究テーマは間葉系幹細胞を用いた半月板再生です。間葉系幹細胞(Mesenchymal stem cell=MSC)は間葉に由来する幹細胞で、中胚葉由来の骨・軟骨などに分化します。同教室の古賀先生による滑膜由来間葉系幹細胞による軟骨欠損部の修復や、堀江先生による半月板修復の報告があります。私の研究は違う系統のラットを用い、半月板を部分切除したところにMSCの同系移植、同種移植を行い、それぞれの免疫反応による半月板再生の違いをみるというものです。

またもう一つ、BMP-7を用いた半月板再生について研究をしています。BMPは骨形成因子(Bone morphogenetic protein)のことであり、骨軟骨形成作用を有するサイトカインとして同定されています。これまでにBMP-7が軟骨のホメオスタシスの維持に寄与していることや、軟骨の変性を減少させること、軟骨欠損部の修復を行うことなどが報告されています。私の場合は、同じくラットの半月板を部分切除し、その後BMP-7を関節内注射し、半月板再生が促進されるかどうかを確かめる、というものです。

どちらの研究も、現段階で発表できるほどの結果は出ていませんが、後日報告できればと思っています。

さて、東京に来て1年になりますが、すっかりこちらにも慣れ、関西弁もあまりしゃべ

らなくなりました。この1年の出来事はいろいろありました。一番大きなものはやはり地震でしょうか。その日、私は前日に急遽頼まれた外勤のために日産横浜スタジアムにいました。大きい揺れとその後の大きい余震にビックリしましたが、とりあえず診察を続け、終了するころには、「エライことになってる!!!」感じはあったものの、どうやって帰ろうかな～、なんて暢気にかまえていましたが、電車が動かない…。ていうか、よりによってこんな日に!という思いで一杯でした。とりあえず、知人宅に身を寄せ、子供のために作っていたカレーライスを御馳走になり、結局泊めてもらい帰宅難民にもならず済みました。「持つべきものは友」「遠くの親せきより近くの他人」とはよく言ったものです。

もう一つの出来事は、ボクシングを習い始めたことです。週1回くらいしか行けませんが、ストレス発散になりますし、嫌なことがあればひたすらサンドバック(酔えば同僚も)を叩き続けます。関西に帰る前に、ボクシングジム探さないとな～、と考える今日この頃です。(別に帰ったらストレスがあるかもしれない、とか思っていないです。多分。)

というわけで、他愛無い文章で申し訳ありません。こんな日々を送っていますが、暖かく見守っていただければ嬉しいです。

それでは皆様にお会いするときは東京の匂いがプンプンするような人間になって帰りたいと思います。